



←江戸川の堤防の草むらに  
によつきりと頭を出したツクシ。  
本格的なツクシ摘みにはまだ  
早い、そのうち多くの人でに  
ぎわう日もちかい。

→暖かくなって乗り  
に来る人も多くなっ  
た矢切の渡し。

土日と続けて暖かな日が続いたが、日曜日の今日は後半になって南の風が強く吹いた。まさか、春一番などと発表されるのではないだろうか。

そんなことを気にしながら矢切通信を書いている。上の写真にもあるように、あちらこちらに春らしさが見られるようになった。

まず最初に目についたのが江戸川の土手のツクシだ。なぜかツクシを見つけると、ひとりでに顔がほころぶ。

次のページにあるように桜も春の喜びを感じさせてくれる。もつともソメイヨシノと違って写真にあるカワヅザクラの場合には喜びとはまた違ったものがあるのはなぜだろうか？

ともあれ、春めいた証拠には矢切の渡しに乗りやってくるお客さんの顔だ。きまって顔がほころんでいる。暖かくなってくると人の顔の筋肉もゆるんでくるのだろうか。

不思議に思ったのは、矢切の渡しに乗りやってくるひとりの多くが、

「お金はどこで払うんですか」とか、「何分に舟が出るんですか」

## 今週のクマ

→暖かくなってきたクマはご機嫌だ。こちらに向かってお腹を見せ、ゴロンする。



→松戸駅に近い坂川沿いに商店街が植えたカワヅザクラが今年も盛りを迎えた。駅に向かう人々が立ち止まって見上げて行く。



などと尋ねてくる人が多かった。と、いうことは初めて矢切の渡しに乗りに来た人が多かったということだ。

たまにそういう人もいなくはないが、何人もそういう人がいたということは、いまだに矢切の渡しの名前だけを知っていてやって来る人がいるということだ。

矢切の渡しの歌がヒットしたのは、昭和五十八年ごろだから、いまから三十五年も前にことだし、渥美清の演じるフーテンの寅が矢切の渡しに乗って葛飾・柴又の実家に戻るシーンが描かれた『男はつらいよ』の第一作が上演されたのは、昭和四十四年だからすでに四十九年になる。およそ半世紀も前に描かれたシーンによって矢切の渡しに乗り来ているとしたら、それはものすごいことだ。

もつとも、最近でもいろいろなテレビで矢切の渡ししが放映されているから、その影響だと思いがそれにしてもすごいことだ。とりたてて宣伝もしていないし、テレビ局に売り込みをしているわけでもない。不思議な現象だ。

日本に一ヶ所しか残っていない渡し舟だから人が来てくれるのだろう。舟をこいでいる杉浦さんに敬意をはらいたい。